

令和元年 12 月 16 日
山形地方気象台

山形地方気象台における目視観測通報を自動化します

これまで山形地方気象台では、気温、風向、風速、降水量、日照時間などを自動で観測するとともに、職員が目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、山形地方気象台において、目視観測通報を自動化します。

1 変更予定日

令和 2 年 2 月 3 日

2 変更点等

別紙のとおり

3 参考

東北地方の各地方気象台（仙台管区気象台を除く）でも、目視観測通報を自動化します。

本件に関する問い合わせ先
観測予報管理官：北條
電話 0 2 3 - 6 2 4 - 1 9 4 6

地方気象台における目視観測通報の自動化について

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、地方気象台における観測のあり方について、見直しを図りました。

これまで地方気象台では、気温、風向、風速、降水量、日照時間などを自動で観測するとともに、職員が、目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測した結果を、毎日定められた時間に気象観測通報として発信しています。

これについて、令和2年2月3日（予定）より、東北地方の地方気象台では、職員が目視により行っている観測を自動観測へ移行することとしました。これに伴い、一部の大気現象等は観測を終了します。

なお、仙台管区気象台では、従前どおり職員による目視観測通報を継続します。

■ 自動観測に移行する観測種目

- 以下の大気現象については、職員による目視観測から自動観測に変わります。
- 視程（見通しのきく距離）も、新たに視程計を設置して自動観測します。
- 雷は、これまで職員が目視や聴音により観測していましたが、雷監視システム（LIDEN）と気象レーダーのデータを用いた自動観測に変わります。

〈今後、自動で観測する天気や大気現象〉



晴, 曇, 雨, 雪, みぞれ, 霧, もや, 煙霧, 雷



■ 目視観測通報の自動化に伴い観測を終了するもの

● 天気

快晴、薄曇

● 大気現象

現象の分類	目視観測通報の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	雪あられ, 氷あられ, ひょう, 細氷, 凍雨, 霧雪, 着氷性の雨, ふぶき, しぶき, 霜 ^(注) , 結氷 ^(注) , 竜巻, 積雪, 冠雪 ^(注)
大気じん象	黄砂, 煙, 降灰, 風じん, 砂じん嵐, じん旋風
大気光象	かさ, 光冠, 彩雲, にじ
大気電気象	電光, 雷鳴

(注)
初霜, 初氷, 初冠雪は記録します。

● 雲量及び雲形